

〔江家次第第七月〕解齋○神事今食

次藏人供御粥高堅粥也盛之

〔江家次第第十三〕千僧御讀經事

一行道次引粥事主水司於南角給之

〔類聚符宣抄三〕太政官符東海東山北陸山陰山陽南海等道諸國司令臥疫之日治身及禁食物等事
漆條

一粥○并煎飯粟等汁温冷任意可用好之○中若成赤白痢者○中糯糯粳糯以湯○餪○食之○中

以前四月已來京及畿内悉臥疫病多有死亡明知諸國百姓亦遭此患仍條此狀國傳送之○中其國司巡行部内告示百姓若無粥餪等料者國量宜賑給官物具狀申送今便以官印印之符到奉行

正四位下行右大辨紀朝臣○男從六位下守右大史勳十一等壬生使主

天平九年六月廿六日

〔東大寺正倉院文書三十七〕淡路國天平十年正稅帳

正月十四日讀經貳部金光明經四卷最勝王經十卷供養雜用料充稻參拾肆束玖把捌分飯料米參斗貳升充稻陸束肆把粥料米肆升貳合充稻捌把肆分餪料米漆合充稻壹把肆分

〔源氏物語夕顔〕ことさらに人くまじきかくれ家もとめたるなりさらに心より外にもらすなとくちがためさせたまふ御かゆ○などいそぎまいらせたれどとりつぐ御まかなひうちあはず○下

〔源氏物語末摘花〕やがてかへり参りぬべう侍るといそがしげなればさらばもろともにとて御かゆこはいひめしてまらうどにもまいり給て引つゞけたれどひとつに奉りて猶いとねぶたげなりととがめ出てかくい給ことおほかりとぞうらみ聞え給ふ